

## 朝鮮半島と私 ～政治、経済、文化とどう関わってきたか

2015年1月22日

パネリスト：福田 恵介（『週刊東洋経済』副編集長）

パネリスト兼コーディネーター：

春木 育美（本学国際社会学部 准教授）

福田 どうも福田です。46歳です。過分な紹介をいただきました。ここ最近結構韓国よりは北朝鮮の方に毎年1回行っておりました、記事を書くことも、結構読まれるのがそちらの方が多いので、北朝鮮の方を結構書いています。今日はなぜ私が朝鮮半島に関わるようになったかということを通して、今の韓国の状況、日本から見る韓国の状況、あるいは韓国から見る日本の状況とか、それを踏まえて、外国を見るためには、あるいは考えてみるには、どうしたらいいのかという一助になっていただければ、私の目的は達せられたと思っております。

私が決定的に朝鮮半島に関心を持つようになったのは、1980年です。僕は長崎の生まれなのですが、80年代は佐賀県にいました。父親も実は新聞記者で「西日本新聞」という福岡に本社がある新聞社で記者をやっていたまして、転勤で佐賀県に移りました。

当時、たまたまラジオをつけたら、がやがやと多様な音声が入ってきました。佐賀県というのは、民放がほぼ1局しかありません。当時ラジオ局は、福岡の方から入ってくるのですが、佐賀には長崎放送の佐賀放送局というのがありました。その一方で中国語と韓国語の放送がどんどん入ってきました。地理的に近いのもありますし、時々電波のいたずら

でテレビも映ったり、そういう地域でした。外国語の放送、特に韓国語や中国語の放送の中で、なぜ韓国語だったかと言うと、たまたま流れてきた女性の声が美しかったからです。とても印象的でした。それで、「あ、なんだ、この言葉は」と思ったら、それが韓国語で、その時「へえ」と思ったのです。

「韓国ってどんな国だろう？」とは、その時は全く思っていませんでした。皆さんはあまり想像がつかないかもしれませんが、私の生まれた時には「朝鮮漬け」というものがありました。いわゆるキムチなのですが、トウガラシが入っていません。ただ辛いだけのキムチ……辛いだけのキムチって分かりませんよね。これまで韓国に行かれた方、いらっしやいます？水キムチを食べてみましたか？あんな感じです。あんな感じの白菜で作ったものが、なぜかわが長崎地方では朝鮮漬けという名前で売られていまして、私はタクアンより当時から朝鮮漬けの方が好きで、よく、親父から「お前は朝鮮人だ」と言われていたのですが、その時は韓国ってどんな国なのかな、ということは考えたことがありませんでした。

中学生ぐらいで、いろいろと外国にも関心を持ち始めた時でしたが、親がすごく嫌な顔をするのです。その時。韓国、朝鮮と言うと、何となく嫌な顔をする。1983年ぐらいでしたが、「チョーセン人」。この言い方はしてはいけません、あえて言うと、良心的な人で「朝鮮“の”人」と言うような、言い方がされていました。やはりそこにはもちろん蔑視的な、あるいは差別的な発言が含まれていました。私の父も新聞記者のくせにこういうことを言っていたのですね。

何でこんな悪く言うのかな、というのが私に関心を持ったきっかけです。何でそこまで言わなきゃいけないのか、ということです。親の世代、あるいは友達の前では、韓国に関心があると言っても、当時は相手にされませんでした。みんなやはりアメリカや欧米志向で、その中で多分韓国だ、北朝鮮だと言っているやつは、すごく浮いていたと思います。今

でも振り返ってみても、すごく自分は浮いていたなと思うのですが。

それからです。学校の勉強はあまりせずに、その時から、図書館にある本とか、韓国、朝鮮に関する本をかなり読みました。今みたいにインターネットありませんので。ただ、なぜかその時にちょうど1983～1984年ころですね、「北朝鮮はいい国なのでしょ？」という人がいました。いましたというか、結構いました。やはりその時まで社会主義の国に対する憧れというのがわれわれの父の世代にはあったのです。社会主義はがんばっている。みな平等でいい政治やっている。あとは、もともと社会主義、共産主義、あの辺に関心があって、何となくユートピアを夢見ている、そういった大人がいました。

でも、その「いい国」という意味が、私にはまったく分かりませんでした。何となく金日成という人物が何かやっていて、しかもラジオから聞こえてくるのも、「こちらは平壤」という、何となく無味乾燥な放送しか聞こえてこなかったのです。それではたして何がいいと言っているのか。韓国を悪く言う、韓国、北朝鮮を悪く言う人がいると思えば、良いと言う人がいて、少しアンビバレントな感じが私にはありまして、その辺から関心が生じてきて、今まで続いているということですね。

ここで皆さんに言いたいのは、今の反韓についてです。反韓、嫌韓本、ちょっと韓国はおかしいとか、そんな本を読んだという方？読みました？読んでない？そうか。本買ってねって出版社なので言っておきます。ただ、それでも結構単調な、一方的な言い方の言葉が並んでいるのが反韓、嫌韓ブームだとわれわれはよく言いますが、書店に行くと、『もう韓国はいらない』とか、そういった言葉が並んでいる本のコーナーを皆さんご覧になったと思います。私も一応仕事なので読むのですが、本当は読みたくはありません。やはり当時も、今のようにあまり理由がなく反感を持っている人がいました。反韓、嫌韓がなぜか今になってまた復活してしまったのだろうか、という印象を持っています。

確かに日本は韓国を植民地支配していました。植民地、宗主国から植民地への差別意識と言いますか、上から目線と言いますか、そういうのから来ているような気がします。戦後70年に今年はなりますが、それにもかかわらず、なぜか今頃また嫌韓とか、反韓とか、そういう短絡的な、一方的な見方で、しかも、あえて言うところばかりを集めて、他人の悪い面ばかり集めて声にしたら、それが本として世に出てしまうという。反韓本、嫌韓本書いている、室谷克実さんという方がいるのですか、この方は多分もう印税だけで何千万も稼いでいると思います。人の悪口を書いて何千万も稼げるっていい商売だなと思うのですが。この人も元記者ですが、あえて言うところやはりさすがに記者としてそういうことはできませんね。記者の良心ですね。他国の悪口をあげつらって金を儲けるというのは、やはり私にはできません。しかもそういう短絡的な話だと、なおさら話にならないのですが。私が韓国に関心を持ち始めた1980年代、70年代と、なぜか今の2010年代は、何か同じような、何となく表現は違えども、根幹的には共通する悲しい時期になっているようです。

ところで、80年代の後半から旧ソ連が怪しくなります。社会主義の総本家のソ連が怪しくなり、かつ、一方で韓国の地位がだんだんと上がってきます。1988年には、みなさんまだ生まれていませんね。1988年のソウルオリンピックを前に、韓国とはどんな国なのだろうと、テレビ放送を含めて、日本では延々と韓国ブームが起きました。やはり韓国ブーム、特にオリンピックみたいな世界的な行事があると、テレビとか、われわれメディアも結構良いところ、あるいは庶民目線というか、政治とか、政治の軍事政権がどうだとか、そういったある意味ネガティブな視点よりは、オリンピックのようなイベントを間近にすると、ポジティブな目線になります。これはメディアの特性です。それによってだんだんと韓国の庶民の姿が見えてきます。「何だ、普通の人じゃん」みたいな、そういうところがありました。加えて、1991年に、ソ連邦が崩壊します。

ちょうどこれ私が大学4年生ぐらいの時だったのですが、東欧社会主義、東ドイツなど社会主義政権が崩壊したのです。そういった一連の流れで何と途端に世の中が変わりました。

私は、大学生の時に韓国語を勉強しました。ロシア語が専門なのですが、韓国語を勉強していました。1987年に大学に入学しましたが、韓国語を勉強していると言うと、たいていみなさんから「どうしてですか?」「英語じゃないの?」と聞かれました。ただ、これがソウルオリンピック以降は、がらりと変わらして、先見の明があったと言われました。人というのは不思議なものです。本当に流されます。しかも、私はロシア語を専門にしました。その時も「何でロシア語なんか勉強するの?」ってさんざん言われました。それで、ちょうどこれがゴルバチョフさんのペレストロイカがあって、だんだんと人の顔をした社会主義と言われるようになって来ると、「いや、先見の明があったね」と。私、これ人生で2回言われているのです。

「何で?」というネガティブな視線からいきなりポジティブな視線を向けられる。本当に外国を見る目というのはすごくいい加減なものです。世の中の関心がない人にとっては、ですね。

逆に、それまで「北朝鮮っていい国なのでしょう?」って言っていた人達が、コロッと変わり、「北朝鮮って変だね」って言い始めるのです。例えば1983年のランゲーン・アウンサン廟爆破事件というのがありました。これは北朝鮮の工作員が、当時、ランゲーン、今のミャンマーを訪れた、当時の全斗煥大統領や主要な閣僚を爆殺しようとした事件です。大統領は無事だったのですが、外務大臣とか、何人かかなり主要な閣僚が亡くなりました。しかも、オリンピックの前には大韓航空機爆破事件というのがありました。金賢姫という女性がいて、彼女は工作員で、この人ともう1人の男の工作員が大韓航空機を爆破し、オリンピックが開かれる韓国に悪いイメージを与えようとしてしました。

そういった事件があって、逆に北朝鮮がいきなり悪者になってしまうのですね。それまで結構いいかもれない、あるいはいいも何も思っていなかった人が、やはりこうやって韓国を持ち上げて、北朝鮮を下げる。もちろん北朝鮮に関しては、これだけの悪事を働いたので、なかなか良いイメージが持てないのは当然ですが、その前からいろいろな人の話を聞いている自分からしたら、人間はすごくいい加減だなと思います。

そう思うとますます私の関心は高まり、ついに1988年のソウル・オリンピックの頃に、初めて韓国に行きました。その時、親が福岡にいましたので、福岡から船に乗って釜山に行ってソウルに行きました。「日韓共同切符」という、片道福岡から9,800円でソウルに行けるという切符がありました。今もあるのかな。これを博多駅まで買いに行ったのですが、切符の番号が2番でした。そこまで覚えているのですが、その切符は無くしてしまいました。ただ、その時1週間ぐらい韓国にいて、楽しかったですね。やはりその時、韓国はまだ日本と比べて、今のソウルだとそれほど日本と変わりませんが、もう20年以上前の韓国は「ああ、まだまだだな」というところもあるし、町は汚いし、車はクラクションをプープー鳴らしているし、うるさいなというのが第一印象でした。いろいろ見て回り、韓国語は今に比べて100万倍話せなかったんですけど、いろいろな人と現地で話していると、「ああ、良かったな」と満足して帰ってきて、その年の夏休みはもう韓国の本ばかり読んでいました。学生時代は、いろいろな本を読んでいて、そういうことは結構良い思い出となっています。

ただ、この時にずいぶん言われたのが、「日韓共同切符」なんて珍しいわけですね。大体日本の鉄道、その時はまだJRになっていなかったと思うので、国鉄ですね。車掌さんとかに、切符見せると、大体言われたのが、こうです。「キーセン旅行ですか?」。キーセンって分かりますか、皆さん?もう、あまり知らないでしょうね。一応、もともとの意味はよ

く今韓流の歴史ドラマにも出て来ますけれども、貴族の男性の前で歌舞音曲、歌ったり、踊ったりする女性をキーセンと言います。このキーセンというのが、あまり女性の前ではなかなか言いづらいことなのですが、70年代ぐらいから80年代ぐらいまで、キーセン旅行、日本人男性の韓国へのキーセン旅行というのが、まあ要は売春目的の旅行ということなのです。それが流行った時期があり、たいへんな社会問題、国際問題になりました。逆に、こういうのがあったからこそ、韓国側が今、慰安婦の問題を出して来たというのもあります。そういう恥ずかしい一面があるのですが、韓国に対しては、大体そういったイメージ、本当にネガティブな上から目線のイメージがありました。

70年代、80年代には、こういったこともありました。私も実際聞いたことがあります。韓国人の男性を見ると、みなKCI、要はスパイに見えてしまう。韓国の女性を見ると、キーセンに見える。そう言って言いのける、政治家もいました。そんな時代もあったわけですね。今からすると、今は本当に皆さんを含めた女性、あるいは私と同年代より上の方、おばあさんまで、韓国に行ってショッピングしたり、韓流のイケメン俳優のファンミーティングに行ったりと楽しまれている姿を見ると、これは本当に逆転したなど、時代は変わったなどいつも思います。

80年代、90年代には、だんだん韓国も民主化されて、日本との交流もさらに拡大します。韓国で海外への観光旅行が解禁されたのが1989年です。日本は確か60何年だったと思うのですが、1989年以降、普通の韓国の方が日本にずいぶん来るようになりました。

1984年には、NHKのハングル講座が始まります。私のこの時のテキストを持っているのですが、すごく難しく、当時高校生だったのですが、何で文法の解説がこんなに難しいのかと思いました。せっかく開設したのにリスナー逃げてしまうのではないかというぐらい、難しいテキストだったことをよく覚えています。ただ、今はすごいですね。韓流ス

ターもいますし、楽しんで勉強できるようになっていますが。この辺もやはりだんだんと韓国という国を知る時間をかけて積み上げて行った、そういった軌跡だと思います。いろいろなところにそういう関係、よく見れば、さまざまな軌跡が見てとれます。

私は1991年に社会人になり、メディアの世界に入ったのですが、ずっと韓国ばかりやっていたわけではなく、あくまでも社内的位置づけでは、韓国は副業でした。一応メインをやって、何か韓国関係があれば、なぜか私のところに来るといような仕事回りで、仕事の的には韓国と関わりを持つようになりました。それで、だんだんやっていくうちにやはりもう1回ちゃんと韓国語を勉強したいし、あの国に住んでみたいなという気持ちがかむくむくと沸くわけですね。

その時、たまたま、今は朝鮮日報、日本語版もビューで見ることができすけれども、朝鮮日報のところから奨学金をやるから来ませんかという誘いを受けました。一応試験を受け、それが通って、1999年の6月から翌年の5月まで、韓国の延世大学で韓国語を勉強しました。それから、だんだんと何となく、まあ仕事でも韓国語が使えるようになるかなという実感を持ちまして、それで戻って来たら、これが2000年ぐらいですね。この時に「先見の明があった」と言われました。あの時期に韓国に留学するなんて先見の明があったね。それまで「何で韓国に行くの？」って言っていた人が、がらっと変わって言うわけです。というのは、やはりこれは一番大きいのは『冬のソナタ』ですね。皆さんの、お父さんはどうか知りませんが、お母さんも、ヨン様に惚れられた方もいらっしゃるかもしれません。

これから、新たな次元を迎えるなどと思います。何となく韓国を語る時に、政治、どうしても政治的なファクター、あるいは歴史的なファクターがやはり密接に関係して韓国が語られがちだったのですが、そういうのがプツンと切れまして、もう純粹に好きだから、芸能人が好きだから、



韓国のドラマが好きだからという、普通に日本で何とかさんが好きだからというのと同じような感覚で、韓国を知り、韓国に行き、見て、韓国料理を食べ、いろいろなところに行き、純粹に韓国を見る人が増えていったなというのが、2007～2008年です。

2000年に『シュリ』というハリウッド張りのアクション映画が公開されて、これが大人気となりました。この韓国映画は日本でも相当な人気を呼びまして、それが1つのきっかけとなりました。その次がヨン様ブームです。これで「ああ、韓国も本当に変わったな。ワールドカップもあったし、このまま何となく日本とは良い感じ、まあ波はあってもいい感じでいくのだろうか」と思ったら、なぜかこの2010年ぐらいからおかしくなって、先ほど申し上げたような反韓、嫌韓、あるいは反日、嫌日ブームがおきて、今に至っているわけです。

なかなか外国というのは、特に近い国だといろいろな状況に左右されます。私の息子は今9歳ですけれども、時々朝起きると、「お父さん、アンニョンハセヨ」とか言ってきます。父親がやっている事に関心を持ってくれることはすごくいいことだと思うのですが、何となく今みたいなややこしいことを考えると、息子にはそれこそポーランドとか、タイとか、あまり日本とそれほど関係の無い国について勉強してほしいなという願いも実はちょっとあります。ただ、私が皆さんの前でこんな偉そうな感じで言うことになるのですが、なぜ嫌いになるのか。なぜ好きになるのか。なぜ良いのか。なぜ悪いのかということは、自分で見て、調べて、判断しなきゃだめだと思うのです。今の嫌韓、嫌日も、多分先々週うちの週刊『東洋経済』にも載せてあるのですが、今結構ネット上とかで、嫌韓で「韓国なんて付き合うな」とか、そういった暴言を吐く人というのは、大体そういう本も読んでいない人なのです。韓国も行ったことがない。韓国も知らないのに、韓国はこうだろうと言う。韓国はこうだろうという思い込みで、何かを適当に言っている。根拠のないことまでも。

悪口を言ってすっきりしている。清涼剤だな、とわれわれは言うのですが、ただ、それでいいのかと問いたいです。

短絡的、単純な見方というのは、先ほど申し上げたように、私の父や母の世代、それより前の世代もまさしく同じでした。ただ、父は昭和8年の生まれです。1933年の生まれですが、今になって結構思い出す言葉がたまにあって、「朝鮮の人はまじめな人はまじめだった。いい人が多かった」なんて、たまにふっと漏らしていた父の言葉があるのです。というのは、たぶん子どもの時に、まだ戦争中ですね、いろいろな朝鮮の人が結構父の家とかに来ていたらしいのです。それは商売だったり、あるいは物乞いだったりというようなことも聞きました。ただ、それでも、やはり父の中ではそういった実際に会った人、会った朝鮮の人や、韓国の人から得た記憶というのもやはり残っているわけですね。だから、みなさんはまだ若いので、もう韓国も行かれた方もいらっしゃると思いますが、やはりそういった機会があれば、北朝鮮の方にも行かれてみてほしいと思います。北朝鮮に行くのでしたら、ハワイとか、ヨーロッパに行った方がいいとは思いますが、それでもやはり皆さんに言いたいのは、知ってほしい、いろいろまずは知ってほしい、見てほしいという本当に単純なことです。単純なことをこの場で言うのも、恥ずかしいですが、見ながら言ってほしい、調べてから言ってほしい、聞いてから言ってほしいということを、やはり皆さんに伝えたいと思っています。今日は本当に、このことを皆さんに実践いただければありがたいと思うのですが。

われわれの世代と違って、皆さんが若干かわいそうだなとちょっと思ってしまうのは、われわれの時は競争相手は、日本人だけでした。これから社会に出て、あるいは大学に入るのも、大体ライバルは同じ日本人です。ただ、皆さんの場合、社会人になると、もういろいろな国の人とおそらく競争しなければならなくなりますよね。競争するということは、やはりライバルを知ることなのです。

例えば、皆さんが就職活動する時、はっきり言って勉強ばかりしてきた韓国人の人、中国人の人は優秀です。そういう人たちと皆さんというのは競争しなきゃいけない。それを、私は一番、まあ皆さんは東洋英和に入られているぐらいだから能力は高いと思うのですが、やはり残念なのがこういった、今のような嫌韓、反韓のような短絡的な思考を持って外国人と接して勝てるわけがないのです。そんな単純なものではない。だからこそ、やはりライバル、まあライバルという言い方はちょっときつい言い方かもしれませんが、やはり皆さんもこれから日本人だけじゃなくて、いろいろな人と付き合わなければいけません。私もそうですけれども。だから、皆さんも結婚されて、あるいは子どもを持たれて、うちの息子もそうですけれど、これから子どもたちはますます競争に晒されます。その中でやはりライバルを知る、相手を知ることが、まずは本当に大事なのです。この基本的なことを今の日本人は結構忘れがちです。特に若い方です。一番嫌韓本、反韓本を買っている人は50代と言いますが、やはり皆さん、そこを改めて、なまじ韓国人を知っているだけに、やはり皆さんには、ある意味、これからの助言として、申し上げたいと思います。ありがとうございました。

**司会** ありがとうございました。それでは。

**春木** 実は、福田さんと私は同世代なので、お話を聞いていると、あ、私もそうだった、とおっしゃっていることがよくわかりますし、大いに共感しました。簡単に私も福田先生のように自分のライフスヒストリーと韓国との関わりをお話しますと、「金大中事件」があった時、私6歳だったんですね。年齢が分かっちゃいますね（笑）。「金大中事件」が起きたということを新聞やあるいは『サザエさん』の漫画で見て、「何だろう、金大中って。これ人名なんだ。おもしろい名前だな」と思いました。そ

して漢字の練習で「金大中」と書いたりしていました。それが初めて韓国とつながった契機だったと思います。

また、私の両親は非常に社会的な関心が高く、家には本がたくさんありました。韓国、中国の歴史や、日本は韓国や中国に対して戦時中に何ををしたか、植民地支配の歴史とか、そういう内容の本もたくさんあって、そのような本をパラパラとめくりながら、「あ、これは中国や韓国の人とは仲良くなれない。私、日本人だから嫌われている。友達になってももらえないだろう」と、小学生の時に強く思いました。

それから、『朝日ジャーナル』という雑誌が常に家にあって、それを読むと、韓国のことがよく書かれていました。「あ、韓国っていう国では、こんなことが起きているんだ」ということを、意味はよく分かりませんが、パラパラとページをめくるたびに私の中に印象として残っていったように思います。

うちはちょっと特殊な家で、両親が韓国の人に対する偏見がまったくない人でした。なので、朝鮮の人は、とか韓国の人は、といった否定的な会話は聞いたことないですし、むしろこれからは一緒に助け合ってきていかなければならない、と言うような親だったので、それがとっても私にとっては幸運だったかもしれません。韓国や中国の人を下に見るとか、偏見の目で見るということが全くなかったからです。子どもは家庭の雰囲気や親の言動、周りの環境に大きく影響を受け、また左右されますので、私の子どもにもそうなってほしいと思いました。それで息子を2年前に韓国にホームステイさせました。すると彼は、「韓国の人は、あったかいね。すごいね。いいね」って言って帰って来てくれたので、とても嬉しかったです。そういう気持ちを大切にしてほしいなと思っています。

福田さんと同様に、私もまた1988年のソウルオリンピックで韓国に目覚めました。韓国っておもしろいな、と夢中になった世代が、まさに

60年代後半に生まれた私たち世代です。その世代が今、マス・メディアをはじめとしてそれぞれの分野で活躍というか、第一線で働くようになっていきます。

よく日本と韓国は似ていると言いますね。距離的にはもちろんとても近いですね。留学などに行きますと、とにかく韓国人と一番仲良くなって帰って来るケースが英和生でも多いのですが、韓国人と日本人は、もちろん見た目がとても似ています。共通点もたくさんあります。話もよく通じます。でも、かなり違う点もあるということ結構忘れがちです。日本人と同じはずだ、同じように分かり合えるはずだ、あるいは考えるはずだと思いついでしてしまいます。そこで何か違う、となると、韓国にはうんざりだ、理解できないと安易に切り捨ててしまう人が、最近少し増えているような気がします。

でも、韓国と日本は、違うのです。相違点はたくさんあります。例えば、今日のテーマは韓国の政治、経済、文化とあったので、韓国政治に関して、実は福田さんは韓国の政治経済、特に北朝鮮の最新情報について非常に詳しい方です。サムスンに関する本もたくさん出していらっしゃるって、サムスンの話をしたら、実は日本では一番といっていいほど詳しい方です。まず韓国の政治システムですが、ご存じのように日本とはかなり違います。ここから起因する政治行動や、あるいはどういう政策を打ち出してくるのかというのは、制度的な要因が非常に大きいという点を日本は忘れがちです。韓国の政治システムは、大統領直選制で任期は5年、再任なしです。大統領が任期途中で亡くならない限りは、5年間政権は変わりません。ですから、朴槿恵政権はこの先、まだ数年間は変わらず続きます。再任はないので、5年ごとに必ず大統領が変わります。そのため、韓国では5年ごとにある意味、希望というか夢見ることができます。5年後には何か変わるかもしれない、ドラスティックな変化があるかもしれないと。実際に新しい大統領は任期中、支持率が高い初年度に、

かなり大胆な政策を打ち出すことが多いのです。これは日本の政治システムではなかなかできないことです。韓国は政策立案、法案制定までのスピードが非常に速い。韓国はよく変化が速い国といわれますが、大統領のトップダウンでかなりの部分、制度的に変化が起きやすい、起こしやすいという面があります。

日本とは異なり、韓国の場合は国民が直接選挙で大統領を選出しますから、自分たちが選んだ大統領という意識が非常に強い。国会は一院制で解散はありません。4年の任期で変わります。日本の政治と韓国の政治で、また大きく違う点は、日本は世襲議員が多く、自民党議員ですと40%が、第二次安倍内閣の閣僚ですと50%が二世、世襲議員です。小淵優子氏もそうですよね。韓国には世襲議員はほとんどいません。朴槿恵は例外というか特別です。朴槿恵のような、お父さんが大統領で、自分も政治家、そして大統領になったという人物は、韓国では彼女しかいません。そもそも二世だからといって政治家にはなれない。まず、当選できないし、公認候補にすらなれません。ここが日本と韓国の政治システムの違いでもあります。こうした差異は、意外にいろいろなところに影響を及ぼしているのです。

朴槿恵と父親の元大統領の朴正熙は、韓国では極めて特殊なケースである父子型政治家です。父親が大統領、または政治家だった、しかも偉大なる父親と娘という組み合わせというのは、実はアジアでは時々みられる「後光型政治家」の典型例です。韓国だけが特殊というわけではありません。しかし、父親の時代と、娘の時代では、韓国という国家の世界的な威信、位置づけや見方、あるいは韓国の国内事情、経済、政治的ビジョンなどは全く異なるのですが、彼女はお父さんの光と影の中で今を生きている政治家で、父親の影響、負の影響からも逃れられない人物です。なので、なぜ日本に対して厳しい態度を崩せず、強気になるかと言うと、父親は日本と癒着していた親日的な人物だった、「高木正雄！（朴

正熙の日本人名)」と大統領選の時に、対立候補に罵られるほど、日本にすり寄った人物とみられていた。そのため、日本に自分から歩み寄る、日本の肩を持つということは、彼女にとってはできない選択なわけです。父親の負の影は消したい。そして父親のプラスのところ、韓国を経済発展に導いたという威光だけを全面に押し出したいのです。

**福田** 朴正熙さん、軍事クーデターで政権取りました。当時1960年ですね。よく一人当たりGDP、若干あれば違うのですけれども、この時韓国がいくらだったと思いますか？60ドルぐらいですよ。日本はその時確か当時2,000ドルぐらいでした。今の韓国のGDP、一人当たりのGDP分かります？もうね、30,000近いですね。それだけやはり発展したという話なのですが、先ほどの日本との癒着というのは、なかなか一方で言うと癒着、一方で言うと、経済原則から必要だったということが言えるのですね。朴正熙が政権を取って、その後1965年、ちょうど今年で50年ですが、日韓国交正常化になります。その時、日本からの賠償金、日本側からは賠償金と言っているのですが、賠償金じゃないですね、韓国側が賠償金ですね。日本からは請求権資金と言われたのですが、合わせて6億ドル、外貨が行って、それで高速道路や製鉄所を作ってインフラを整備して、それで当時、「漢江の奇跡」という経済成長を遂げるのです。そのために、高木正雄……もちろん高木正雄さんだったのですが、当時、植民地支配を受けていた時ですね。日韓癒着と言っても、必要悪と割り切って、それにあまり過去の縛りに囚われず進められたというのは、やはりこの朴正熙さんの役割だったということをやっと申し上げたい。

**春木** 経済専門家によるご説明ありがとうございます。それに関連して、今まさに福田先生もお話されたように、当時の韓国は、ユニセフ募金で

かわいそうな韓国の子どもたちのために募金活動をしよう、と叫ばれるくらい、北朝鮮よりも貧しい国でした。軍事クーデターで大統領になった朴正熙は、経済発展をすることで自分に対する支持をとりつけようという、正統性の問題もあって、何とかして韓国を経済発展させるために、日本との国交正常化に踏み切ります。実は、この時に日本の政財界が強力なバックアップを韓国に対してしています。岸信介、安倍総理のおじいさんですね。岸信介は日韓国交正常化とか、あるいは日本と韓国の政治の太いパイプ役としてかなり活躍した人物です。

**福田** それも「妖怪」と言われていたのですよね。日本政界の妖怪と言われるのは、安倍首相のおじいさんですね。

**春木** 他にも瀬島龍三という、伊藤忠の会長という役職ではありましたが、この人物もかなり日韓関係の影の部分で暗躍したと。

**福田** よくフィクサーという言い方をされるのですけれども、児玉誉士夫さんと、瀬島さんはビジネスマンの仮面を被って……仮面と言っちゃいけない、ですが、そういう表の政治と、表の経済界があって、裏の方の人物で結構蠢いていたのですね。日韓の経済関係で、案外、今になって、韓国からいろいろな日本に対して親日派が何とか出て来るのは、その辺の時代背景もあって、ですね。

**春木** 当時の三菱商事の藤野社長、彼は朴正熙と1対1で会った時、お互いに非常に強い信頼関係を築くようになり、藤野社長は朴正熙にほれ込んだと言われています。朴正熙の祖国近代化戦略、経済発展にかける強い思いに、日本の経済界の利害がうまく噛み合っただけで動き出した時期です。この藤野社長という人は非常に有能なビジネスマンで、韓国の経済



発展に必要な、信頼できる日本人であるということで、大統領が頼りにした。三菱商事側は韓国で市場を拡大したいという目的もあり、この2人は急接近します。

浦項製鉄所、今はPOSCOとなりましたが、先ほどの三菱商事の藤野社長が、浦項製鉄所の建設に反対した八幡製鉄所とか、富士製鉄所の社長らを説得して、韓国の悲願だった製鉄事業、重工業化政策に後押しし協力しました。お互いに利益があったのですね。相互利益を追求するという感じで、日韓間には非常に強いパイプがありましたよね。政治、経済的に。そのため日韓の往来も頻繁でした。

**福田** 特に皆さんちょっと知っておいたらいいかなと思うのが、この浦項製鉄所を作った朴泰俊さんという方がいらっしゃるのですが、早稲田大学出られた方で日本語がおそろしいぐらい上手で、しかも野太くて男らしい方でした。3年ぐらい前に亡くなったのですが。その人がある意味、「鉄の男」って言われるぐらいのリーダーシップで、もちろんその後ろには朴正熙のバックアップがあったのですが、これを成し遂げました。これはやはり「鉄は国なり」という言葉があって、日本がだからこそ、一番最初に明治維新で八幡製鉄所を作ったのと同じような考えで、ポスコ製鉄所、浦項製鉄所を作ったのです。そういった背景もあります。

**春木** 80年代後半から、私や福田先生も韓国語を勉強し始めましたが、当時はまとまったテキストなんてあまりなかったですね。こんなに日韓間で頻繁に会って、政財界の人が一緒に事業を推進し経済協力をどうやってしていたのかというと、韓国側は結構日本語でしゃべっていたんですよね。先ほどの朴槿恵のお父さんの朴正熙大統領が三菱の藤野社長と話す時も日本語だったそうです。カラオケも日本語で歌っていたと。

**福田** そうそう。日本の特派員でも、90年代前半ぐらいまでは、韓国語ができない人が多かった。ほとんどでした。というのも、取材先、主な取材先はみんな日本語話せる人ばかりなのですよ。だから、あえて日本語話す必要はなかったそうです。それが90年代の前半、あるいは90年代までですかね。今の特派員はほとんどが韓国語を大なり小なり話せる時代です。それが当時とは違うのですけれども。ビジネス界も、政界も、ビジネス界も、経済界も同じで、韓国の方がみんな日本語話してくれたのですよ。ちょっとアンバランスだった。

**春木** 私が韓国に留学したのは91年から95年にかけてなのですが、まだ90年代までは日本の製品に対する絶大な信頼感や憧れが強くて、この象印の炊飯器、この炊飯器を十何個、韓国に運びました。買って来てって頼まれて。やはりご飯は日本製で炊かなきゃおいしくないって。そのぐらい、とにかく日本製品が憧れの対象だった。というのも、90年代の最初ぐらいまでですかね。

**福田** そうですね。今、中国の方がやられていますね。中国線に乗ると、今中国の方が日本に来て、炊飯器を買って帰っています。象印のやつね。この辺はなんか、よく経済学的にあえて言うと、雁行型発展というものです。やはり発展のトレンドというのは、こういったような同じようなことが起きるのかもしれないね。

**春木** こちらの数値は80年代～90年代にかけての性別に見た韓国への渡航者数です。1985年前後を見ると、韓国に行く日本女性は男性の10分の1以下です。当時は、女性は韓国にはほとんど行かない、観光旅行に行くなんて考えもしない時代で、私が韓国に留学した90年代になってもこんなに少ないです。当時、日韓線の機内は背広を着たビジネスマ

ンで埋め尽くされて真っ黒だった記憶があります。

**福田** よく韓国行きましようよって、90年代に会社の先輩とか誘ったのですけれども、「いや、かみさんがね」って言われました。それはなぜかと言うと、やはり韓国といえばキーセン旅行というイメージがまず強かった。韓国というところには、女性が行くようなところではないイメージがあって。このグラフは2000年までしかデータないのですけれども、2010年ぐらいに男女比が逆転しました。今はそれが続いているかどうか分かりませんが。2010年か2011年ぐらいに、女性の韓国訪問者数は男性を超えています。既に。そういう状況です。

**春木** まさに韓国、韓流、ソフトパワーの影響が大きかったと思います。この浦項製鉄所とか、地下鉄1号線が日本の経済協力によってつくられたということをもって、日本では韓国の経済発展は日本の協力によって、技術援助によって成し遂げられたと見られがちです。もちろんそういう側面はあるのですが、その一方で韓国はベトナムに派兵し、3710人もの多くの労働者もまたベトナムに出稼ぎに行きました。旧西ドイツにも、炭鉱夫や看護師を送り、外貨獲得のために、国家政策として労働力を輸出しました。それから、70年代から80年代にかけては中東にたくさん出稼ぎ労働者が出かけて行き、彼らがもたらした外貨によって韓国は経済発展を成し遂げられたと思っている人も、韓国には多いのですよね。

**福田** そうそう。やはり、もちろん日本の技術的、資金的なバックアップがあって、韓国の経済成長があったのは、確かにその通りです。それ以外に、やはり一時期「血の輸出」とか言われましたけど、自国民を労働者として派遣したり、いろいろなものを輸出したり、あるいは国策で戦争にもやったりというので得た外貨。あとやはり、韓国人は勤勉、と

でも勤勉なのですね。これはやはり東南アジアと比べても、いや、だから劣っているというわけじゃないのですが、やはり韓国人は真面目です。上昇志向も強いし、良い意味での上昇志向もあるし。それと、やはり日本のビジネスのやり方と相まって、発展途上国の中では、それこそ一人当たりGDPが20ドルから今の20,000、30,000ドル近く上がって行く中で、やはり韓国のそういった特性、国民性もあったということ、ちょっとここで申し上げたいと思います。

**春木** 日韓間は、経済の分野では、韓国企業と取引があったりとか、韓国に出張に行ったり韓国から取引先の人が来たりと、かなり密接につながっていますよね。

**福田** そうですね。もう政治的にはもうこんなん……こんなんって言ったら、もう冷却、冷え切っていますけれども。経済界では、ビジネスマンってシビアですから、特に韓国が優位だとなれば、韓国行くのですね。例えば生産の基地。それも結構高付加価値な、例えば、航空機です。東レという会社があります。そこでは航空機の炭素繊維というもののシェアが伸びているのですが、今、生産拠点は韓国です。韓国は電気代が安いとか、インフラがいい、営業のマーケティングもいいという、いろいろな理由で結構韓国とまずは手を結びます。

繰り返しになりますけど、気持ち的には何となく合うんですね、韓国人と一番。やはり中国人とか、他の東南アジアにない、どこがどうだと言われると、なかなか答えに窮するのですが。韓国って、その辺のマインド的なところも一緒になれる。1つの目標があれば、マインド的に一緒になれる数少ない外国人といえます。実際にいろいろな、貿易的、金額的にはやはり中国とか、今でも大きな市場のところが大きいですけれども、実際は歴史と技術の集積、関係になると、やはり日韓関係、日韓

朝鮮半島と私～政治、経済、文化とどう関わってきたか

の経済関係というのはやはりなくてはならないものです。皆さんの中にサムスのギャラクシー持っている方もいらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、よく部品はみんな日本製だ。だから、日本が部品の供給止めたら、韓国企業は嫌がるという言い方をして反韓、嫌韓を叫ぶ人がいますが。逆に今、日本の企業にとっても、そういったサムスンをはじめ、韓国企業が一番のお得意様なのです。こちらが供給しない、あるいは供給を別にしなかったら、他に売る場所がないわけですね。それだけある意味密接な関係になっているということ、ちょっと皆さん、どこかで頭に入れておいてほしいと思います。

**春木** 今、東レの話出ましたが、私も実は数年前に東レとお仕事をしたことがあって、「あ、東レも韓国とつながっているんだ」と思いました。その直後にカルビーからも仕事の依頼が来て、カルビーも韓国とつながっていて、カルビーの製品をこれから韓国市場でどんどん売りたいと言われました。

**福田** 韓国では「ジャガビー」が売られております。

**春木** 韓国人とは一緒にビジネスがしやすいというのですが、例えば、韓国人も非常に長時間働きますよね。そこも日本と一緒にですね。また、韓国のビジネスマンは結構日本語が話せる人もまたたくさんいますし、第二外国語は、日本語を学ぶ人もとても多い。

**福田** 今どうでしょうね。今や中国語かもしれないですけどね。

**春木** 政治の分野はどうでしょう。

福田 繰り返しになりますけど、春木先生がおっしゃったように、かつては良きにつけ、悪しきにつけ、こういった政治的パイプがありました。表もあって、裏もあるような。それがだんだんとなくなって来て、逆に今プツンと切れている状態なのです。それまで日韓議員連盟とか、いろいろ政治的なパイプもあったんですが、はっきり言って今それがありません。だから、ちょっと問題が生じて表に出ると、昔はいろいろなところですがすぐ消火できたのですが、今それができない。しかも、みんな言いたいことを言う。朴正熙が大統領であった時代は、その当時の世代の人の中に、やはり何となく植民地をしたことに対する贖罪意識というものも若干あったのですね。若干でもないかな。やはりだから、それは韓国には何かこういうことをしたことがあったから、何かしてあげなきゃいけない。植民地支配に対する何と言いますか、後ろめたい気持ちがあったから、逆に何かしてあげなきゃいけないと。もちろん、朴正熙さんのように初めは日本で教育を受けた方も、先ほどのボスコの朴泰俊さんもそうだったのですが、多いんですね。特に朴正熙さんが有名な話で、かつてよく岸首相に会っていた時に、「私、吉田松陰の気持ちで国家建設に取り組みます」とか言ったことあるらしいですね。もう大河ドラマ始まっていますね。やはりそれに感動したと。日本の歴史上、結構かっこいいとされている人物の名前を出して、国家建設を語るというところに、この世代というのは、そういうことにすぐ涙もろいですから、ぐっと来るわけですね。そういった思いもあったのですが、今はもう結構時代もかわり、お互いに二代目、三代目の時代になると、だんだんこういう情の部分で・・今はっきり言ってパイプなんてあるのでしょうか。

先ほど春木先生は金大中事件のことをおっしゃいました。金大中事件というのは、最初の反韓ブームと言ってもいいぐらいのものだったのですが、それをうまく消したのがこの瀬島龍三さんですね。裏で、ですね。裏でうまくやったのです。それで、何となく政治の中だけでもみ消した

ということがあるのですけれども、今はそういった役割を持っている人がいませんし、そういう時代でもないですからね。すぐ情報がインターネットに流れますので。だから、政治家の人は大変です。よほどの志がない限り、今の日本、あるいは今の韓国のような世論が入ってくる時代ですね。日韓関係を何とかしたいということが見えない。だから、もっとやはり政治的に力を、決断を持って、用意周到に、どういった日韓関係を作り上げて行くかというビジョンを持った人が政治家にいないと、なかなか日韓の政治関係は難しいのではないかと思います。それは一つに慰安婦の問題であったり、歴史問題だったり、まあ、韓国の言うことが全て正しいわけじゃありませんよ。もちろんそうです。反論すべきところもありますし、とんでもない主張をするのも、今の韓国には少なくありません。ただ、やはりそういう時は、日本は日本できっちりと主張すべきですけれども、何となく主張もしない、何となく諦めというか、先ほど言ったように、もう主張しようとしもない、勉強もしない人達も今、日本の政界に結構いらっしゃいますので、その辺に私はすごく危機感を持っています。

**春木** 今の政治家、私や福田さんと同世代の政治家の中でも、日韓議員交流をしようといって、若手同士で実際に交流する人もいました。ただ、この世代の政治家となると、お互いに英語でコミュニケーションをとるのですが、細かいニュアンスまでなかなか伝えきれない。韓国に行って英語で話して、爆弾酒飲んで、はい、さようなら、って感じで、なかなかお互いに分かり合えない。信頼関係の構築と継続まではなかなか行き着かないようです。

**福田** 爆弾酒飲んだら、何も覚えていないんですよ。「ああ、飲んだな」というぐらいしか覚えてないですよ。私も取材に行って飲まされて、

爆弾酒、一番嫌なんですよ、実は。私、結構な飲兵衛なのですけれども、爆弾酒だけは嫌で、いきなり避けるのですが。これやるとみんな忘れてしまいます。酔うだけで忘れちゃう。だから、何も残らない。本当に悪癖です。

**春木** 朴槿恵政権発足後、日韓関係はどうやったらよくなるのかといったシンポジウムなどに参加してみても、日本側は熱くなっているのですけれども、韓国側は何か白けていて、研究者なのにスマホいじって話を聞いていないとか、結構冷めているなど思ったこともありました。今年は日韓国交正常化50周年記念ですけど、全然盛り上がりませんね。

**福田** そうです。今年2015年は、先ほどのこちらにも書いていますが、65年の日韓国交正常化50周年ですが、本来なら、いろいろ盛大な式典をやってしかるべき関係なのですが、今政治的にこういう冷え切った状態で、何かやるのかな。何か考えられていましたっけ？そういう話さえ、もう既に2015年に入ったのにされていないという状況です。それでいいのかって思っている人はたくさんいると思うのですが、どうにもできないというところがあって、それは政治的な関係がですね。もちろん、安倍さんもいつもオープンにと言われても、口だけオープンで、全然その気がない。朴槿恵さんは韓国では「不通」というニックネームで呼ばれています。今のですね。「不通」というのは、通じないということですね。話をしない。相手を聞き取ろうともしない。お互い不通同士で、日韓関係も不通になっている。全然しゃれにもならない状況で、本当に困ったものです。

だから、民間で何とかやりたいなという、経済界でもやりたいなというのは結構出ているのですけれども。やはりそれもまだ日韓関係、政治的な関係、良好な政治関係があってこそ、できるもので、なかなか厳し



いですね。特に、先ほど春木先生もおっしゃいました、1期5年制です。韓国の大統領制。今年3年目ですよ。朴槿恵さんですよ。

私、本当は個人的には朴槿恵さん好きで、いつも「グネちゃん」とか言って、大統領になる前も、よく選挙の応援演説で、彼女の演説はすばらしいのですよ。もうとくとくと、すごく上品かつ印象的、情熱的に、民衆、市民に語りかけるあの口調というのは、ですね。「選挙の帝王」と言われたぐらいなのですけれども。すごく「ああ、この人なんていい人なのだろう。これだけ公に国民に語りかけられる人が大統領になって然るべきだな」なんて思っていたことありますが、なった途端、こうガラッと変わってしまったので、すごく私も違和感を覚えています。

1期5年のうちの3年目というのは一番厳しいですね。5年間、再選がないのでやりたい放題、再選を考えずに出来るというのが1つのメリットなのですが、韓国というのは、やはりすぐ、次のお殿様という、王様を探す国なのです。3年目というのが一番危ないのですよ。よくレームダックという言葉があります。もう政権はあるけど、何の力もない状況をレームダックと言いますが、もしかしたら、朴槿恵さんはレームダックに入っているかもしれません。議会も動かないし、大統領もなかなかそうやってうまく行かなくて、唯一、うまく行っているのは外交です。しかも反日外交。よく産経新聞は「告げ口外交」とか書いていますけれども。それしかうまくいっていないのではないかというような感じです。この前、先月だったか、朴槿恵政権が半分に来て、「成果は何ですか？」という世論調査がありました。50%以上が「何もない」という答えになったぐらいなので、彼女もこの3年目に何かをしなきゃいけないのです。それが、われわれメディアからしても、やはり「不通」だけあって、見えないのですよ、全くビジョンが。政治、経済、外交、何をやりたいのか。なかなか出て来ない。いろいろ言葉は出て来ます。例えば、経済だったら、「創造経済」。クリエイティブな創造ですね。「創造経済」という

のがあるのですが、みんな、誰に聞いても中身が分からないと言うのです。外交も、結局慰安婦の問題を何とかと言うのですが、じゃあ実際どうしてくれと。どうすれば、韓国側が納得できるのか。その正解さえも言わない。なかなか厳しい状況にあるので、ある意味、今年は日韓関係、見物でもありますし、あるいは私なんかはちょっとハラハラしているというか、不安になっているのが今年の日韓関係という状況です。

**春木** ちょっと話を経済の方に変えまして、この朴槿恵、世襲政治家という、韓国において非常に珍しいタイプです。政治の世界では二世議員がほとんどいないにもかかわらず、財閥は二世、三世ばかりですよ。この落差をどう解釈されますか。

**福田** 皆さん、お父さん、お母さん、自営業の方、いらっしゃいます？ 立ち入ったこと聞きますけど、後を継いでくれるって言われます？ ああ、それは日本的なのですね。韓国はやはり、もちろん日本のそういったある意味オーナー企業というところにも少なからずあると思いますが、やはり自分が築き上げた財産、資産というのは、他人のものにしたいくないという意識が強いのです。特に韓国はそれが強い。やはりなかなか、今の大韓民国独立後70年経ちましたけども、それも結構波乱万丈な国情があるから、日本に比べるとはるかに。朝鮮戦争もありましたし、クーデターも2回もありましたし、政情不安の中で、いかに自分たちが築き上げた財産、あるいは家族、親族を守るかという意識が、日本よりも強いのではないかと思います。

今はサムスンはじめとして二世は過ぎ去りつつあって、三世まできていますね。この前、大韓航空の、あれは韓進グループという財閥企業のオーナーの娘さんで、今、拘留所入っていますけれども。彼女も三世ですからね。「ナツ姫」と今言われていますが。彼女たちぐらいの三世

で、サムスンにも李在鎔さんという慶應大学に留学にしていた方がやはり三世です。LGはちょっと違いますね。LGはまだ二世なのかな。SKという会社があります。SKテレコムという、韓国に行かれた方は携帯電話で知っているかもしれませんが、あそこも三世。この方も実は刑務所に入りましたし、やはり波乱万丈なのです。

政治の状況で経済界が左右される構造があります。というのは、例えば一番の武器は税務調査をかけられると、一発でおしまい。すぐ財産を取られてしまう。あるいは刑務所行き。そういう不安定な状況の中で、じゃあ自分たちが興した会社はどう守るか、自分たち家族しか信頼できる人がいないわけですね。だからと言って、今、二世まではがんばれるのですが、日本でもよく言われるように、三代目が会社を潰すという言葉がありますよね。韓国でもよくそう言われています。だから、三代目は創業者のあの辺のがんばり、それを何となく実感できるものの、二代目の父親のやっていることを何か乗り越えたくて冒険をしてしまうという、そうやっているうちに会社が傾いてしまう。いずれ傾いてしまうというのが、よくあるパターンです。

ただ、だからと言ってオーナー企業、あるいは世襲が悪いというわけではありません。もちろん韓国も今は専門経営者がしっかり育っております。アメリカのMBAを取ってきた人などを含め、いろいろな形で専門の経営者が増えて、しっかりサポートしようとしている。オーナーはいるけれども、そういった専門の経営者に実際の経営は任せたりしています。あまり経済界は韓国の政治、日本の政治みたいに、そういう心配はないと思うのですが、ただ、韓国企業は規模的にやはり小さくて、外部の影響を受けやすい。特に今はもう既に円安で右往左往し、韓国の企業の経営者はすごく心配しています。まだそういう、力が足りない。ですが、今のサムスンの社員の20代、30代の中には、日本企業なんか相手じゃないよと思っている人もかなりいると思います。そういった声も

聞こえてきます。ただ、この前、LGグループという大きなグループのグ・ゴングさんという会長さんは、そういった声が出ると、いつも戒めるとおっしゃっていました。まだ全然日本企業に及ばないから、まだまだ勉強しなきゃいけないということを言っていていつも論ずるのだそうです。聞き手が日本人だからリップサービスだったのかもしれませんが。やはり日本企業のしっかりした継続的な経営から比べると、オーナーゆえに悪い面、オーナーゆえに良い面というのが大体出て来るわけですね。その辺をうまくコントロールできるかというところで韓国経済が変わってしまう。特に韓国経済において、財閥も10大財閥ということでよく公正取引委員会が発表するんですけども、10大財閥のうちで韓国経済の、ある意味、生産高の半分以上、7割ぐらゐがそういった10社だけで占めてしまうという構造もあるわけですね。だから、韓国も今、中小企業、日本みたいに中小企業を育てたいというのを一生懸命やっていますが、なかなかそういう構造が変えられない。だから、ちょっと日本から比べると、まだ韓国経済の構造というのは危うい状況だということが言えると思います。

**春木** このグラフは韓国を訪れた日本人、中国人の数なのですが、日本人は大きく減っています。それは政治の影響と言われることもありますが、円安ファクターが大きいですよ。

**福田** そうですね。円安、大きいですね。単純に言うと、私が留学していた時代は、1万円を替えると10万ウォンが戻って来ました。その後、ずっと、1回、1万円替えて7万ウォンしか戻って来ない時代もあったのですけれども、大体この数年1万円替えると14万ウォンとか、13万ウォンという時代が続きました。今多分10万ウォン帰って来ないのではないかな。やはり3万ウォン、4万ウォン違うと、お得感がずいぶんなく

なります。その辺はやはり円安は確実に急減グラフに出ていると思います。GODはもっと下がっているのかな、確か。

**春木** それと、日韓のトップの2人ですね。日韓首脳会談が1回も開かれていないのは異常事態ですよ。日韓関係をこれからどう改善していけばいいのかとことについて、韓国専門家なら誰もが悩んでいますね。

**福田** 悩んでいますね。言われますね。正解が見つからないのですよ。どっちが勝っても、あっちが立たずで、厳しいですね。この通り、全然。こちらの日本のトップはさかんにオープンだとか言う割には何も考えていない人だし。「慰安婦問題」については厳密に言うと、法律的には日本はきっちり補償をしていると言っても差し支えないぐらいにやっており、さらに90年代にアジア女性基金というのも作りましたが、それが韓国側に受け入れられなくて、もううんざりしているのですね、日本からすると、ですが。韓国はまだ、こういうことを言うと、まあ性犯罪、性奴隷までやったのだから、何とかしろと言いますが、あくまで「情」の話なのです。気持ち。日本はこうで。ソウルに行った時に、よく「日本人は冷たいから」って韓国人に言われました。「何で？」と聞いたら、「法律守るから」と言うのです。その辺に結構端的に表れている。日本だと、法律がこうなっているからと言って、それでやるともう解決したと思ってしまいますが、韓国人はそうじゃない。やはり正しいこと、自分たちが正しいから、きちんとまだ正されていないということに関しては延々と言い続けるというような気持ちがあるので、逆に折り合いが付きづらい。

実は前の民主党の野田政権の時に、彼にインタビューした時に聞いたことなのですが、李明博政権の時にも、慰安婦問題をどう解決したらいい

いかというような選択肢を日本から出したらしいのです。そうしたら、全然返事が来なかったそうです。本当にこれはなぜなのか、分からないのですけれども。野田さんはそういうふうに言っていました。

ただ、後でちょっとご紹介したいのですが、春木先生と同じ韓国仲間で毎日新聞のソウル支局長の澤田さんが自著で書いていたのですが、その時に韓国側の回答があって、到底民主党が出した案でも、韓国の世論を考えると発表できなかったというふうに書いてあるわけですね。ああ、こういうことかと思いました。相当意識と解決のレベルが全然違う。それで、こちらもできることも限られているし、向こうの要求はなかなか日本からすると高いしということで、先ほどの繰り返しになりますけど、日韓関係、そういうこともあって、これさえ解決すれば何とかかなとは思いますが、これがなかなか何とかならないんですよ。これはずっともしかしたら続きそうな、このまま朴槿恵さんと安倍さんが首脳会談やらないうちに、多分朴槿恵さんが任期は早いので終わっちゃうのではないかなという気もしないでもないです。

**春木** そうですね。これは女性の人権問題。女性への暴力の問題なのだとアプローチを韓国側はしているのですが、そこが日本ではなかなか。。

**福田** いや、そうなのですよ。だから、世界的には女性の人権問題になっているわけですよ。日本で歴史とか、過去の問題になっていますけど。女性の人権をどう守るかと言われた時、最大の 이슈に、世界的にはなっていますから。いわゆるそれは日本政権が、意外とそれを気づいていない。分かっても、どこか分かっているのかな、意外とそれを見落として、政治家が見ていないような状況で、特にそれが国際、大国際問題になる可能性もあるわけですね、この慰安婦問題は。そうならないうちに何とか解決しなきゃいけないと思っているのですが、なかなか良い

パッケージが出ないというのがあります。

**春木** 経済界や民間レベルではかなり交流が活発で、多次元に密接な関係が築かれているにもかかわらず、こういった政治問題で日韓関係が悪化していると語られるのは、政治の影響というのは、かなり大きいということの意味していますね。

**福田** 大きいですね。多分日本の政治家以上にもっと大きいと思います。何も動きませんからね。本当はもっといろいろな協力関係が出来て、安全保障にも特に北朝鮮問題、中国に対しても、いろいろな安全保障問題とか、協力できる二か国なのですよ。それがなかなか進まないというところが一番の問題で、北朝鮮という危うい国、あるいは中国という野心満々の露骨な国を抱えている中で、日韓両国ともうまくいけばいいのですが、一筋縄補ではいけない。

**司会** それでは私の方から1つ質問です。金大中が来日して日韓共同宣言出しますよね。そこで21世紀は日韓両国未来志向で行きましょうと。過去にはもうひとまずこだわらない、こだわるまいという宣言をしましたよね。これは後々の政権まで受け継ぐのだということをはっきり言ったと思います。ところが、全然今そうになっていないというのは、どう理解したらよろしいのか。つまりこれはあくまでも金大中政権のみの話であって、その後の政権にとっては、これはもう全く関係ないという、そういう理解なのか。やはり大統領の時にそうやって共同声明まで出して宣言したことが宙に浮いてしまっていると言わざるを得ないのですが。これどう解釈したらよろしいのですか？

**福田** 外交はもう増田先生がよくご存じの通り、継続性というのが一番

ですので、当然そうあるべきですね。韓国から見ると、当時、小淵さんと金大中さんですよ。大韓民国独立以来、最大最強の日韓関係だった時の話なのですが。継続性というか、ある意味1つは韓国の事情があると思います。一期5年で政権を変える。ある意味政権が変わると、前の政権が変わると、前の政権のことを否定しなければいけないという反動も働きますよね。その時、日本との関係どうするか。いつも最初は言うのですが、後になって、レームダック化というものもあるし、韓国側の事情で、特にコロコロ、コロコロ、変わる時があります。特に最近は市民の力が増えて来ましたので、87年の民主化以降、国民の考え、意見というのが無視できない。慰安婦なんか、最たるその例なのですが。そこまで、1回政治力でえいっと捨てられた時もあったのですが、それがだんだん出来なくなっていくという、まず韓国側の事情がありますよね。韓国から見ると、まだ日本が首相が言っているからやりましょうって、もう歴史も反省します、謝罪します……謝罪しますとは言いませんけど、もう過去のことはと言っても、誰かが閣僚が言うわけですよ。例えば、植民地を礼賛するような意見。そうすると、政権として一体が取れていないじゃないか。日本政権はやはり全然反省していないということは政権内でも、国民の中で湧き出て、なかなか韓国側が変えることできない。やはり政治的な事情でなかなか、これはこうだと、日韓関係、作り上げた枠組みがまだないというのが、その繰り返しだと思います。

**司会** はい。ちょうど時間がやって来てしまいました。残念ですが、本日はどうもありがとうございました。